2023/7/3

＜白金標準、4100 円割れはセリングクライマックス・・＞

（出所：オアシス）

週末の白金標準先物は、NY 白金の 900 ドルを割り込み 884 ドルまで下落した事を受け一時 3 月 31 日の安値 4091 円を下回る 4090 円まで下値を模索している。ただ PCE デフレーターの発表や中国人民銀行の貨幣政策委員会の四半期会合で人民元の安定に向けた取り組みを強化すると表明するなど､経済対策の期待感から買い戻しを受けて 4100 円を回復している。特に 26 日～29 日に開催された上海プラチナウィークでは、中国の排ガス規制の強化と大型車の生産台数の増加が見込まれる事が指摘されるなど、工業需要で中国のガラスや化学などの需要が全体需要の 17%増に大きく寄与すると記載されている。また 7 月 1 日からは中国で排ガス規制強化「チャイナ 6ｂ」が段階的に施行されるなど、中国の景気低迷に関係なく規制強化に伴う需要が期待されるなど、見直し相場のきっかけになる可能性は高まると思える。また 900 ドル割れは、電力不足に伴い鉱山会社の太陽光発電や風力発電の設備投資を受けたコスト高を考慮してもコスト割れに近く、供給不足を市場が再認識すると下落した価格は再度 4400 円に向けて巻き戻しを示すと思われる。

＜テクニカル＞

白金標準先物の日足を MACD と RCI で見た場合は、MACD では MACD とシグナルが下げ続けており、また RCI でも短期と長期が横ばいした動きを見せるなど、依然と下値追いを示唆する動きを見せている。ただ日足が既に上昇中である 200 日移動平均線は下回るなど、行き過ぎた売り込みを示唆しており 200 日移動平均線の 4267 円に向けて戻りを見せると思える。

このレポートはお客様への情報提供を目的としています。情報に関しては正確を期するよう最善を尽くしておりますが、内容の正確性、信憑性に関し保証をするものではありません。利用にあたっては自己責任の下で行って下さい。売買の判断はお客様御自身で行って下さい。

〇商品デリバティブ取引は最初に委託者証拠金等の預託が必要で、その額は商品によって異なりますが、最高額は1枚当たり通常取引 3,250,000 円（2023 年 7 月 3 日現在）です。また、委託者証拠金は相場変動や日数の経過により追加預託が必要になることがあり、その額は商品や相場の変動によって異なります。 〇商品デリバティブ取引は相場の変動によって損失が生ずることがあります。また、実際の取引金額は委託者証拠金の約 10 倍から 70 倍と著しく大きいため、損失額が預託している委託者証拠金の額を上回ることがあります。 〇商品デリバティブ取引は委託手数料がかかり、その額は商品によって異なりますが、最高額は 1 枚あたり往復 89,760 円（2023 年 7 月 3 日現在）です。手数料額は相場変動により増減する場合があります。

当社（商品先物取引業者）の企業情報は当社本・支店及び日本商品先物取引協会で開示しています。お取引についての御相談は、当社顧客サービス担当（東京）電話 03-5540-8423 （受付時間：平日 8:30～17:30）

証券・金融商品あっせん相談センター https://www.finmac.or.jp 日本商品先物取引協会相談センター https://www.nisshokyo.or.jp